

確かな信頼で拡大図るブランド牛

静岡県の肉用牛飼養頭数は2万4千頭。かつての乳用種肥育から、黒毛和種、交雑種の肥育が主体にシフトしており、構成比は黒毛和種36.2% (うち繁殖4.0%)、交雑種45.6%、乳用種18.2% (2011年2月現在)。

こだわりある商品に

販売体制の構築が課題

特選和牛静岡をだち

J-A静岡経済連が販売する「特選和牛静岡をだち」は、県内銘柄牛として最大規模であり、年間約2千頭が経済連食肉センター(小笠食肉センター、浜松食肉市場)へ出荷されている。

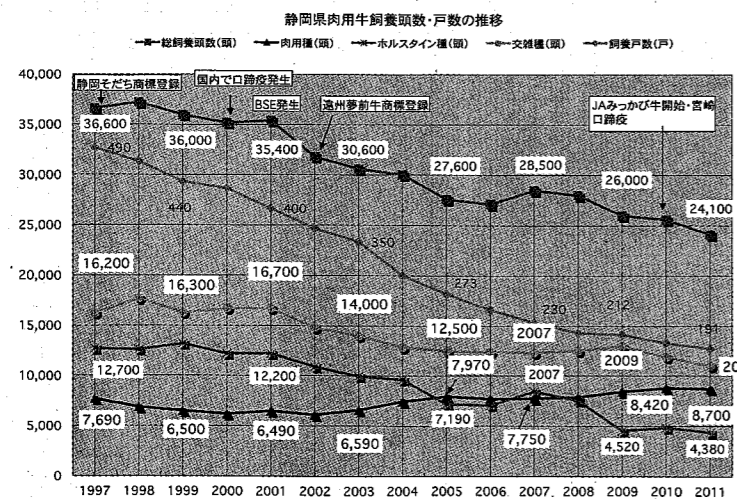
一步上の銘柄目ざす

高い生産技術生かして

遠州夢咲牛

静岡県内でも浜岡地区は「個人の生産技術が高い」との評があり、「遠州夢咲牛」は、近畿東海北陸共進会をはじめ、共進会で上位入賞賞連の銘柄牛である。

静岡県ブランド



近東北共進会で雌の部の最優秀賞を獲得した「遠州夢咲牛」の口一スしん

ことから、同一の生産方法で飼育することを条件に、02年から認定農場制度を開始。11年9月現在、委託農家12戸、認定農場32戸(02年19戸)の合計飼養頭数は約4100頭、年間認定出荷頭数は約2千頭にとどまる。

「静岡をだち」の開始から20年近くが経過したが、とくに飼養管理は統一していない。そこで、「静岡をだち」よりや

「要望に柔軟に対応し雌率を増加」県内を中心に夢咲牛の販売店は26店舗、飲食店42店舗(11店舗、飲食店42店舗)が、門店や料亭をターゲットに販売されている。

みかんとの循環農業

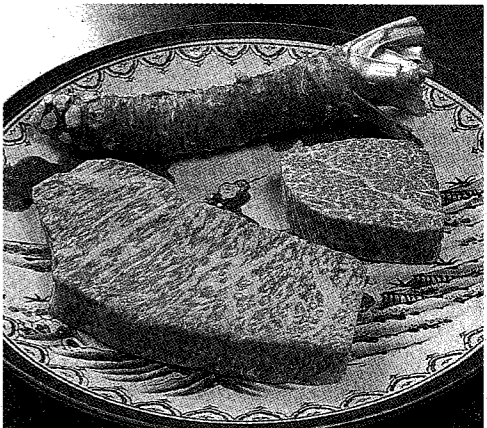
地名冠し地元活性化に

J-Aみっかび牛

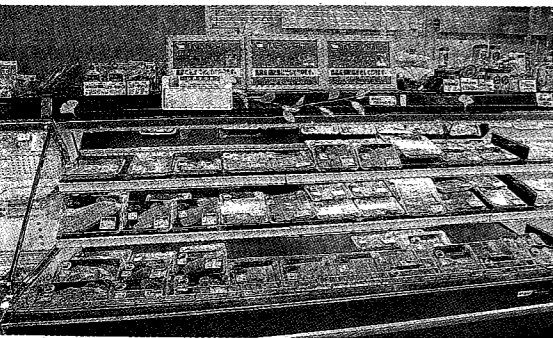
みかんの産地として知られている三ヶ日町は、静岡県西部、愛知県との県境に位置しており、以前から乳用種を中心に肉用牛生産が行われていた。

「三ヶ日牛」の名称で牛を生産。10年ほど前は三ヶ日牛といえはホルスタイン種を指していたが、活性化に貢献することを目的に牛志会を結成。

「JAみっかび牛」の産地は、静岡県西部、愛知県との県境に位置しており、以前から乳用種を中心に肉用牛生産が行われていた。



和牛の味を引き出すため専用飼料でおおむね30カ月齢まで飼育



Aコープ三ヶ日店の「JAみっかび牛」専用の販売スペース

方ゲ在とつをれるれみキンやが